

2021年3月期 決算説明会

2021年6月11日

代表取締役社長 中川 賢司

1. 2021年3月期 決算概要
2. 事業環境について
3. 次期（2022年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

1. 2021年3月期 決算概要

2021年3月期 業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

| | 前期 | 2021年3月期 | 対前期 | |
|-------|-----------------|-----------------|------|---------|
| | 2019年4月-2020年3月 | 2020年4月-2021年3月 | 金額 | 前年同期比 |
| 売上高 | 2,862 | 2,929 | +66 | +2.3% |
| 売上総利益 | 783 | 908 | +124 | +15.8% |
| 販売管理費 | 721 | 703 | △18 | △2.6% |
| 営業利益 | 61 | 205 | +143 | +232.2% |
| 経常利益 | 30 | 177 | +146 | +485.4% |
| 当期純利益 | 36 | 232 | +196 | +535.9% |

期初予想との対比

(単位：百万円)

| | 2020/5/13 発表 期初予想 2020年4月-2021年3月 | 2021年3月期 2020年4月-2021年3月 | 対予想 | |
|-------|---|---------------------------------|------|---------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 3,250 | 2,929 | △320 | △9.9% |
| 営業利益 | 76 | 205 | +128 | +168.6% |
| 経常利益 | 48 | 177 | +129 | +264.1% |
| 当期純利益 | 38 | 232 | +194 | +499.9% |

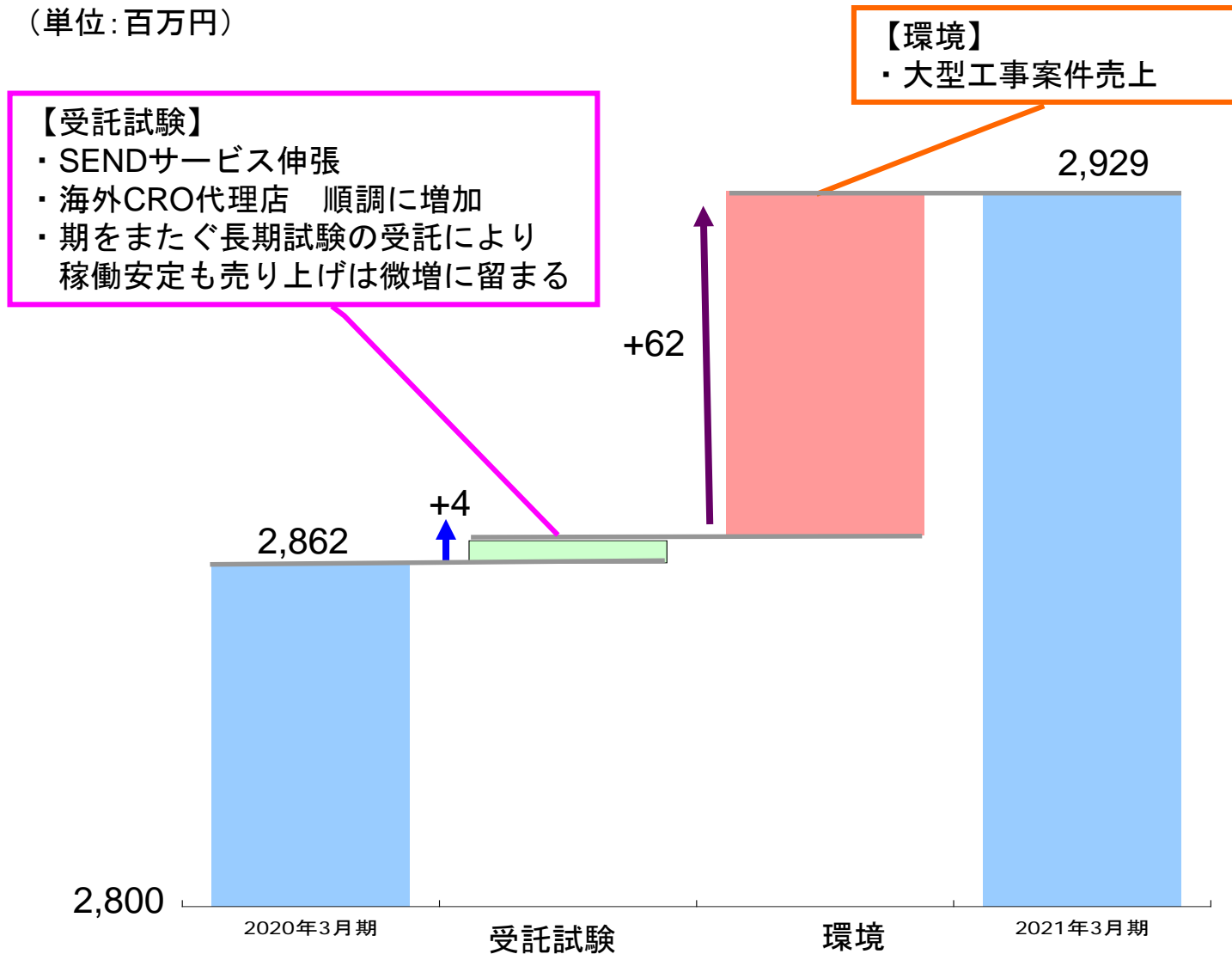
セグメント別業績

(単位：百万円)

| | | 前期 | 2021年3月期 | 対前期 | |
|------|------|-----------------|-----------------|------|---------|
| | | 2019年4月-2020年3月 | 2020年4月-2021年3月 | 金額 | 前年同期比 |
| 受託試験 | 売上高 | 2,707 | 2,711 | +4 | +0.1% |
| | 営業利益 | 57 | 179 | +121 | +211.4% |
| 環境 | 売上高 | 154 | 217 | +62 | +40.5% |
| | 営業利益 | 4 | 26 | +21 | +513.1% |

売上高増減内訳

(単位:百万円)



営業利益増減内訳

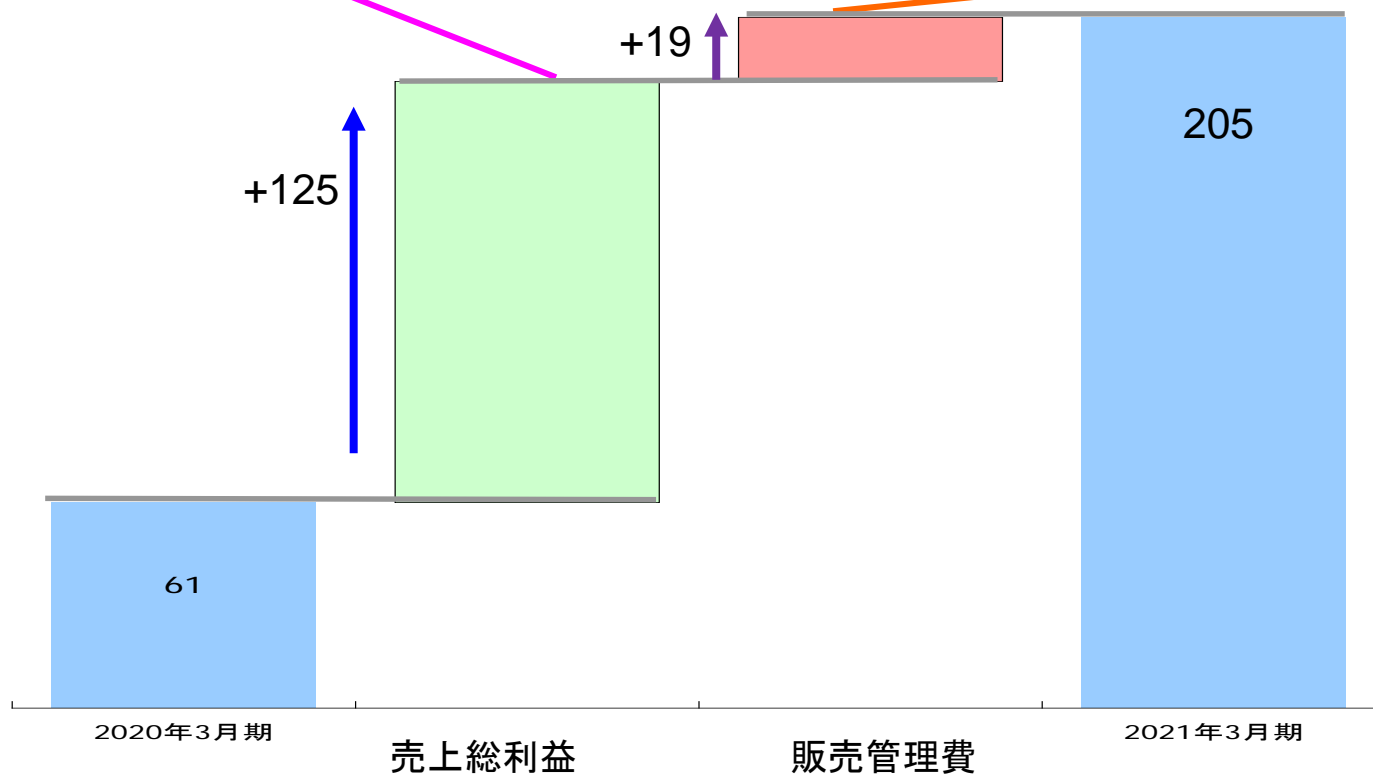
(単位:百万円)

【売上総利益】

- ・売上増加 +20百万円
- ・粗利率改善 (+3.6%) +105百万円
- 合計 +125

【販売管理費】

- ・研究開発費減 $\Delta 11$
- ・旅費学会費等減 $\Delta 43$
- ・営業コミッション増 +32
- ・人件費増 +3
- 合計 $\Delta 19$



自己資本比率・配当

自己資本比率

| | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 2021年3月期 |
|--------------------------|----------|----------|----------|
| 自己資本比率 (%) (自己資本／総資産) | 23.5 | 23.0 | 25.5 |

配当

2021年3月期については、無配とさせていただきます。

2021年6月24日開催の株主総会において繰越利益剰余金の欠損を解消いたします。

2022年3月期については、復配し、1株当たり5円の配当を予想しております。

2. 事業環境について

国内医薬品業界の現状

- ◆国内製薬市場は、コロナによる受診控え等の影響による医薬品の販売減少が目立つ。
- ◆今期より毎年薬価改定が始まり、今後の更なる薬価値下げが懸念される。こうした状況を受け、近年は大手のみならず中小製薬企業においても海外進出が一層進んだ。
- ◆各製薬企業では、モダリティー（低分子、抗体、核酸、細胞、ワクチン、遺伝子療法、組合せ等）による差別化戦略が進んでいる。
- ◆製薬企業の研究者は、よりクリエイティブな方向に業務をシフトしており、CROへの研究業務の外注化は従来製薬会社が行っている創薬初期段階の範囲にも広がりにつつある。
- ◆開発テーマの数に減少はないものの、コロナの影響で遅延している開発テーマが多数あるものと見られる。

アジアの医薬品市場の現状

- ◆東アジアにおいては、新薬開発を開始する中小製薬会社が増え、すそ野が広がっている。
シンガポール、インドにおいても小規模ながらも新薬開発は継続的に行われている。
- ◆特に中国の製薬業界の伸長は目覚ましく、アジア諸国では、FDAと併せて中国に優先的に新薬を申請する動きが見られる。
- ◆上記の国の非臨床CROは、規模が急速に拡大している。
一方で、主要業務におけるエキスパートの不在、大動物の輸入が困難な国があるなど、複数の国で経験豊富な欧米や日本のCROに頼らざるを得ない要因は依然として存在している。
- ◆新型コロナウイルスの影響により、製薬会社の開発計画が遅延になる様子は見られないが、国家間の人の移動は困難となっている。

新たな医薬品、医療技術の動向

◆COVID-19のワクチン開発はひと段落を迎え、目下は治療薬の開発が世界的に盛んになっている。

◆バイオ医薬品に関して、抗体医薬品では、組合せ技術、応用技術が広がっている。

再生医療等製品については、より開発難易度の低い第二種より製造許認可が増えており、今後第一種へと開発増加が徐々に移行していくものと見られる。

CAR-T療法を始めとする遺伝子／細胞治療については、未だニッチではあるものの、国内外の一部アカデミア、製薬企業で開発が行われており、行政を含めた評価手法の立ち上げ段階にある。

非臨床CROの動向

◆COVID-19関連治療薬の開発を始めとするグローバルでの新薬開発の増加を受け、日本を含めて世界的に非臨床CROは多忙な状況にあるものと推測される。

今後の動向予測

- ◆国内新薬開発メーカーはグローバル市場に向けて力を緩める事なく新薬開発を継続していくものと予想される。
- ◆アジア諸国においては政府支援のもと新薬開発に新規参入する企業が増える事が予想される。
- ◆COVID-19を始めとする感染症治療薬の開発増加が予想される。
- ◆今期一杯は、国を跨いだ人の移動が制限され、海外での営業活動は制限される事が予想される。

3. 次期（2022年3月期）の計画

2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)

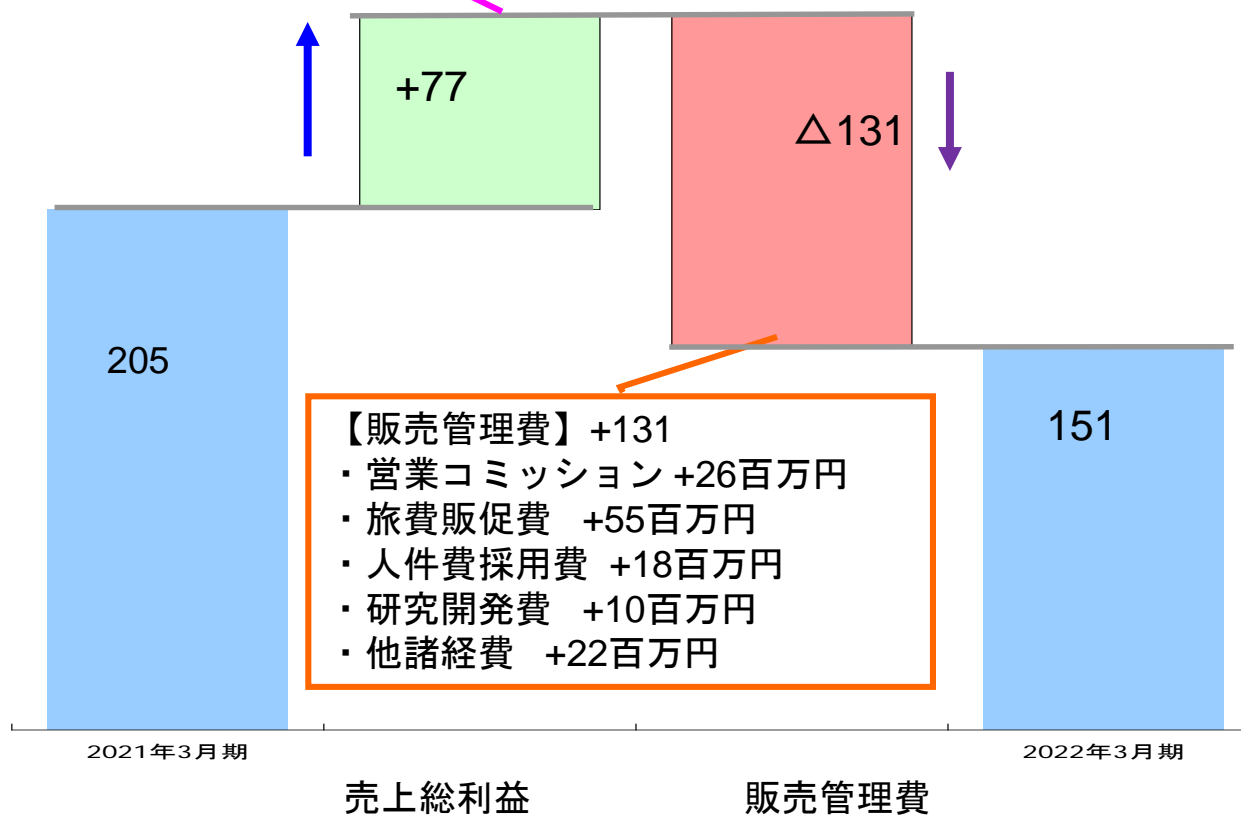
| | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 対2021年3月期 | |
|-------|----------|----------|-----------|------------|
| | 実績 | 予想 | 金額 | 対前期 増減率 |
| 売上高 | 2,929 | 3,200 | +270 | +9.2% |
| 営業利益 | 205 | 151 | △53 | △26.2% |
| 経常利益 | 177 | 124 | △52 | △29.4% |
| 当期純利益 | 232 | 106 | △126 | △54.3% |

営業利益増減内訳

(単位:百万円)

【売上総利益】 +77

- ・売上増加 +83百万円
- ・粗利率低下 ($\Delta 0.2\%$) $\Delta 6$ 百万円



4. 事業展望と課題の進捗状況

非臨床試験事業の展望（1）

海外CRO代理店事業

- ① **Southern Research**（米国）：感染実験・ウイルスベクター抗がん剤試験他
- ② **IES**（スイス）：環境毒性試験
- ③ **Vivotechnia**（スイス）：吸入毒性試験他
- ④ **ZeClinics**（スペイン）：ゼブラフィッシュ試験
- ⑤ **VirusSure**（オーストリア）：ウイルス安全性試験
- ⑥ **Biocytogen**(2020年契約：中国)：ゲノム編集マウスモデル販売・試験



日本にない特色ある技術を持つ海外CROの代理店業務。
前期は、当事業開始年度（2019年度）の3倍の売上に成長。

非臨床試験事業の展望 (2)

AMED事業：遺伝子細胞治療の実用化に向けた
霊長類モデルを用いた安全性評価系の基盤整備

遺伝子治療法開発のための霊長類ラボ
CAR-T細胞などの新規シーズを迅速に臨床試験につなぐための霊長類による安全性評価試験を提供

信州大学

- ・ 新規CAR-T療法研究開発
- ・ 遺伝子細胞治療開発相談窓口

株式会社イナリサーチ

- ・ 霊長類を用いた安全性評価
- ・ 薬事戦略相談窓口

◆2020年度は複数の工事案件の期ズレにより苦戦も、大型エンジニアリング案件の売上により、過去9年間黒字を継続（2016年度～2020年度営業利益:37百万円,10百万円,21百万円,4百万円,26百万円）

◆研究機関の増改築等、大型投資計画は、新型コロナウイルスの影響により遅延中。コロナの状況緩和に伴い好転するものと見込む。

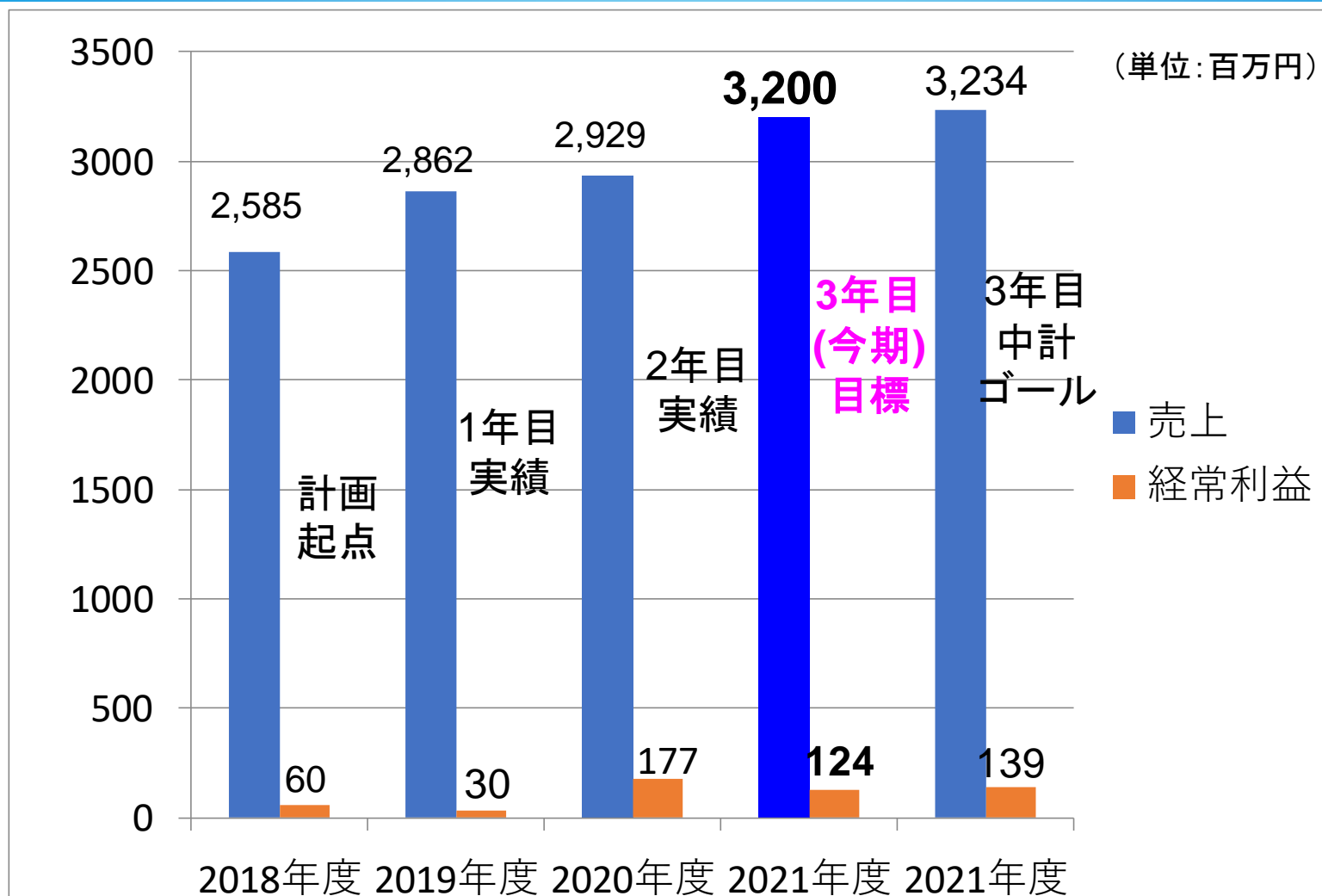
◆販売網拡大施策としてWEB活用による新規顧客・案件の開拓を進める。

◆コスト低減施策として海外資材活用を開始する。

事業の展望(まとめ)

- グローバル展開の推進
市場拡大している海外からの受託増加
- キャパシティーに囚われない新規事業の拡大
- コロナ不況の影響下にある環境事業の立て直し
- 遺伝子治療関連の評価試験の更なる強化
- SEND変換事業を柱とするIT関連事業の強化拡大

中期計画(2019年度～2021年度)の進捗状況



試験受託事業は売上・収益ともに中期計画達成見込み
環境事業はコロナ禍により伸び悩むが、下期での挽回を図る

ご清聴ありがとうございました

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
IR担当

TEL : 0265-72-6616

医薬品開発のベストパートナー



Ina Research Inc.

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2021年6月11日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2021年6月11日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。